

八戸学院グループ 紹介事業



フィリピンの大学を視察する企業経営者ら

12月上旬

20人の採用枠は決定したが、実際に採用する学生は今後、選考する。選ばれた

フィリピンの大学を視察した。

大谷学長によると、雇用を決めたのは、いずれも同市のサン・コンピュータや

ジーアイテックのほか、山形県内の企業など。今月上旬、大谷学長や各企業の経

営者が現地を訪問し、パンガシナンなど4大学を視察した。

大谷学長によると、雇用を決めたのは、いずれも同市のサン・コンピュータや

フィリピン国内のIT系の大学を来春卒業する20人が、来年10月から八戸市などの企業5社に就職する見通しであることが分かった。学校法人光星学院の子会社「八戸学院グループ」が進める海外人材の紹介・育成事業の一環。八戸学院大の大谷真樹学長は9日までの取材に「(人口減など)地域課題の解決の糸口を探る上で、一つのモデルケースになり得る」と取り組みの意義を強調した。(福田駿)

比の学生採用へ

八戸などの企業5社

学生は来春から現地で半年間日本語のトレーニングを受けた上で来日する。

今後、採用枠はさらに拡大する方針で、八戸学院グループは、2019年度までに100人程度の学生を日本に呼び込みたい考えだ。

大谷学長は「フィリピンの学生との交流によって、日本人に国際感覚を養ってもらえる上、海外の人たちの日本への理解を深めることも可能だ」としており、ビジネスだけでなく、教育の面でも大きな成果が期待できる一との見方を示した。